

韓国環境部プレスリリース 2020 年 1 月 24 日付

京畿道で捕獲した野生いのししから ASF ウイルス検出 (野生いのしし 105 例目)

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1215355&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は、京畿道（キョンギド）坡州市（パジュシ）郡内面（クンネミョン）民間制限線中で捕獲された野生いのししで ASF ウイルスが検出されたと 1 月 24 日明らかにした。

今回陽性となった野生いのししは、環境部野生いのしし除去班が山で夜間に捕獲した個体である。坡州市（パジュシ）は野生いのしし ASF 標準の行動指針により試料を採取して現場消毒と共に死体を処理した。

国立環境科学院は 1 月 24 日死体から ASF ウイルスを検出したことを関係機関に通知した。これで坡州市（パジュシ）では 40 件の野生いのしし ASF 陽性事例となり、全国的には 105 件になった。

国立環境科学院生物安全研究チーム長は“今回の個体は 2 次フェンスの中で捕獲された。この地域では感染個体がさらに出てくる可能性が高いため、捕獲と死体搜索をより一層強化する”と話した。

以上